

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】永嶋洋一

【所属】(助成決定時)九州大学大学院 比較社会文化学府 日本社会文化専攻

【研究題目】「朝鮮族」による日本語教育の変遷
－「満洲国」期から現代にいたる「朝鮮族」の実態－

【研究の目的】(400字程度)

本研究は、中国東北地方の朝鮮族学校において盛んに行われている日本語教育の源を「満洲国」期の朝鮮族による日本語教育に求め、「満洲国」期の朝鮮族学校の教育実態を明らかにした上で、朝鮮族の日本語教育が現代に至るまでどのような変遷を辿って来たかについて明らかにするものである。

朝鮮族の日本語教育についての先行研究は、これまで歴史的、政治的視点から見られたものが多く、その教育実態が具体的にどのようなものであったのかについて触れられているものは極めて少ない。よって、そこに研究の余地があると言える。

本研究では、歴史的、政治的な視点を十分に踏まえつつ、これまで明らかにされてこなかった朝鮮族による日本語教育の実態を主に現地での調査結果により明らかにする。これまで「満洲国」期における朝鮮族の日本語教育について調査を進めて来たが、本年度は特に戦後の朝鮮族学校で行われていた日本語教育に焦点を当て、その実態を明らかにすべく現地調査を行った。

【研究の内容・方法】(800字程度)

朝鮮族学校の日本語教育について、特に戦後行われた日本語教育について、その実態を明らかにすべく、中国東北地方にある3つの朝鮮族学校を訪れた。各学校で実際に日本語を教えている朝鮮族の日本語教師に対しインタビュー調査を行い、その結果をまとめた。

調査を行った3つの学校のうち、最も日本語教育が盛んに行われている「梅河口市朝鮮族学校」における調査について報告したい。まず、本調査の目的は、朝鮮族の日本語教師にインタビュー調査を行うことで、これまで見えてこなかった朝鮮族の日本語教育の実態、具体的に言えば、その教授法や教材、また、教師や学生たちについて、より詳細に明らかにし、その教育の輪郭を明確にすることにある。

本調査には大きく分けて二つの意味がある。まず一つ目は、朝鮮族の日本語教師が中学、高校時代に教わった日本語教育についてインタビューすることで、かつての日本語教育の実態が明らかになる点、そして、もう一つは、彼女たちがこれまで行って来た、そして現在も行っている日本語教育についても明らかになる点である。そこから朝鮮族学校の日本語教育の変遷が見えてくる。

「梅河口市朝鮮族学校」には現在7名の日本語教師が働いているが、そのうち5名の教師にインタビューすることができた。幸いなことに30代、40代、50代と各世代の教師から話を聞くことができたため、1970年代から現在に至るまでの朝鮮族学校における日本語教育について、その実態を調査することができた。これは朝鮮族学校の日本語教育の変遷を見て行く上で、非常に大きかったと言える。今回行ったインタビュー調査の内容は、主に以下の通りである。

- ・ 中学、高校時代に受けた日本語教育について（教師、教授法、教材、学生についてなど）
- ・ 教師自身が行っている日本語教育について（教授法、教材、学生、授業で工夫している点についてなど）

インタビューは、ほぼすべて日本語で行い、対象者が質問の内容を理解できない場合には、韓国語で質問する、もしくは協力者の通訳を介して行った。インタビュー時間は一人30分から1時間程度であった。

【結論・考察】（400字程度）

調査の結果、特に注目すべき点として挙げられるのは以下の2点である。

- ① 現在、朝鮮族教師が日本語を教える際に使用している言語は日本語、朝鮮語、中国語の三カ国語であり、現代に近づくにつれ、中国語の割合が増え、朝鮮語の割合が少なくなっている。
- ② 1970年代後半から1980年代にかけて、朝鮮族学校で日本語を教えていたのは、「満洲国」期に日本語教育を受けた人々であり、また、学生の両親も「満洲国」期に日本語教育を受けた世代であったため、家庭でも日本語が使われていた。

まず①の原因として考えられるのは、学生たちの言語能力の変化である。1990年代後半に朝鮮族学校で日本語を学んだ教師の話では、当時、朝鮮語で日本語を教えられていたが、現在では朝鮮語で説明してもわからない学生がいるため、中国語も使いながら教えているということであった。つまり、学生たちの中国語能力と朝鮮語能力の逆転現象が見られるのである。その逆転現象が日本語教育の現場にも影響を及ぼしていることが分かった。これは他の国や地域には見られない朝鮮族学校独自の大きな特徴であると言える。

次に、②についてであるが、当時、専門的に日本語教育を学んだ教師はおらず、ただ「日本語が話せる」というだけで、日本語の科目を担当していたという。現在、朝鮮族学校で日本語を教えている教師は、若い世代ほど専門的に日本語教育を学んだ人が多い。日本語教師の専門的知識や教育経験という点においても、現代の教師との違いが見られる。ここに「満洲国」期の日本語教育と現代とのつながりが見られると同時に、以前の教育と現在の教育との違いも明らかになった。